STOP！

STOP！住宅防火シリーズ①　火災から大切な命を守ろう

着衣着火

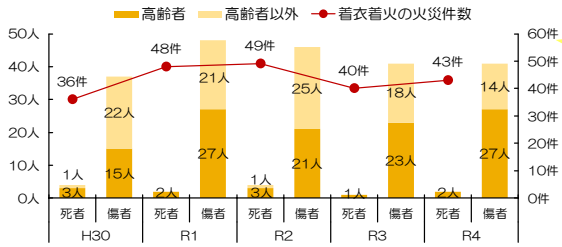
着衣着火とは

着衣着火とは、調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が身に付けている衣服に着火したことをいいます。

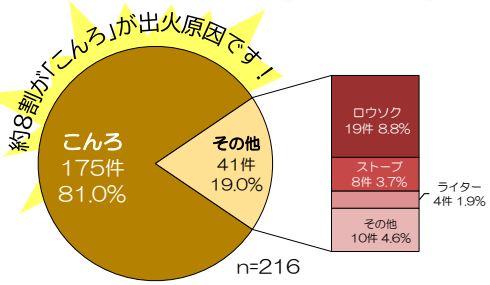
着衣着火の発生状況

■　令和4年の死傷者が発生した着衣着火による住宅火災件数は43件で、前年と比較すると3件増加しています。

■　令和4年の着衣着火による死者数は2人で、前年と比較すると1人増加しています。



死傷者が発生した着衣着火件数・死者数・傷者数
（平成30年～令和4年　住宅内　自損は除く）



出火原因別の死傷者が発生した着衣着火件数
（平成30年～令和4年　住宅内　自損は除く）

東京消防庁

着衣着火を防ぐポイント

■　調理中は、**マフラー・ストールなどは外し**、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に**炎に接しないよう**に注意する。

■　こんろのまわりに**物を置かない**。こんろのまわりの物を取る時に、着衣に燃え移る事例が多数発生しているので注意する。

■　鍋等の底から炎がはみ出さないよう、**適切な火力に調節**する。

■　カセットこんろ等は取り扱い説明書をよく読んで**正しく使用**する。

防炎品を使用しましょう

■　防炎品とは、火がついても容易に着火せず、着火しても延焼拡大を停止する自己消火性を備えた素材で作られた品物のことをいいます。

防炎品ラベルは2種類あります

←防炎物品ラベル

↓防炎製品ラベル

提供：日本防炎協会

※ラベルには様々な様式があります。

左：防炎品　右：非防炎品

■　着衣着火を防ぐため、こんろなどの火気を使用する際はエプロンやアームカバーなどは**防炎品**を身につけましょう。

同じタイミングで着火しても、防炎品のエプロンは燃え広がらず、受傷リスクを大幅に軽減することができる。

もしも着衣に着火した時は

水をかける、脱ぐ、たたくなどして早急に消火し、119番通報を行いましょう！！

問　合　せ　先

東京消防庁 防災部 防災安全課　電話番号 03－3212－2111　内線4196

令和5年10月発行

死傷者が発生した着衣着火のうち「こんろ」を出火原因とする火災は約8割を占めています

過去5年間の住宅火災で、こんろを出火原因とする着衣着火の主な事例をご紹介します（平成30～令和4住宅内181人中、死者9人、傷者172人）

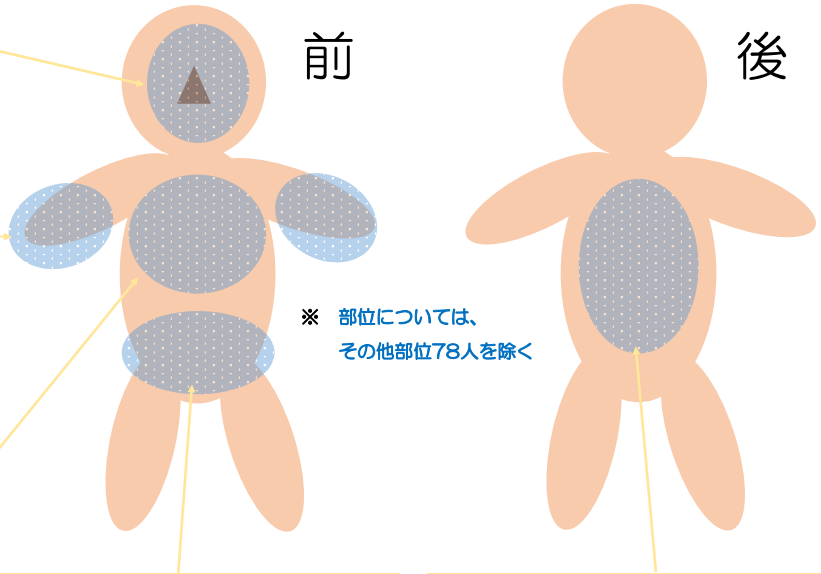
顔・頸部（8人）

90歳代女性は、自宅の台所で調理をしていた際に、エプロンの袖がこんろの火に接触して、着火し、受傷した（中等症）。

手・腕（55人）

①20歳代女性はコンロで調理中に着衣に火が燃え移り、同居人20歳代男性に初期消火を依頼した。男性も初期消火中に受傷した。（男女ともに中等症）

②20歳代女性は、調理中ガステーブルの奥に置いてある調味料を取ろうとした際に、着ていた割烹着の袖がこんろの炎に触れて着火し、右手の甲を受傷した（軽症）。



胸部（9人）

60歳代女性は、調理中の鍋からはみ出したこんろの火が着衣のすそに着火し、上半身にかけて燃え広がり受傷した（重症）。

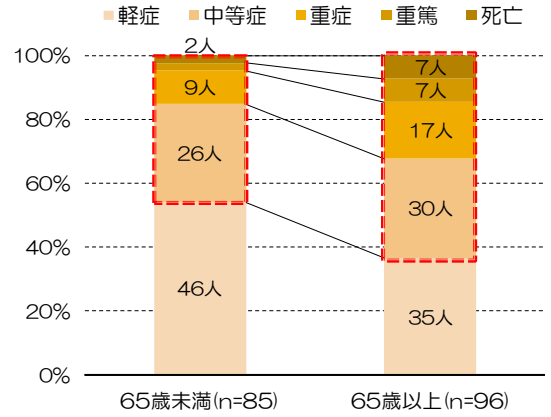
腹部（9人）

30歳代女性は、哺乳瓶を煮沸消毒中、こんろ上部のフックに調理器具をかけようとした際に、着衣に着火し、受傷した（軽症）。

背部（22人）

70歳代女性は、調理のためこんろに火をつけ、後ろを向いたところ着衣に着火し受傷した（中等症）。

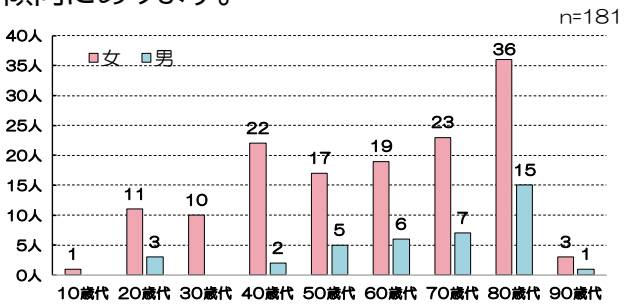
高齢者は素早く消火ができず、重症化してしまう場合が多くあります。



受傷程度別死傷者数
（H30～R４住宅内　自損を除く）

女性に多い

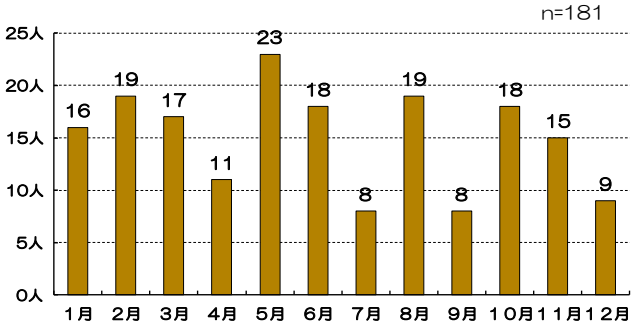
こんろによる着衣着火の死傷者は、女性が男性の3倍以上です。年齢では、80歳代が最も多く、90代を除き年齢が上がるごとに多くなる傾向にあります。



性別・年齢

生活・服装の変化

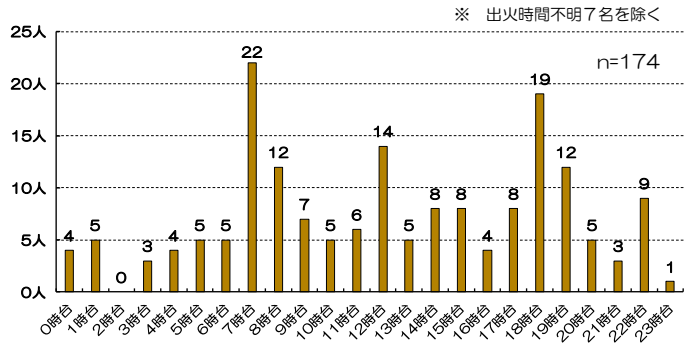
こんろによる着衣着火の死傷者は、季節に関係なく発生しています。



発生月

調理する時間帯に注意

こんろによる着衣着火の死傷者は、調理する時間帯と考えられる7時台及び　12時台、18時台で多く発生しています。



発生時間